

## 総 括 質 疑 並 び に 一 般 質 問 ( 個 人 質 問 )

【質問日】 令和6年12月11日 (水)

質問 順位	質 問 者	質 問 事 項
10	森 永 靖 子	<p>1 大綱会館の建設について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 420年以上の歴史を持つ川内大綱引が国の重要無形民俗文化財に指定された。これを機に大綱会館の建設に取り組む考えはないか。</li> </ul> <p>2 市道風口・山田島線の拡張について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道3号から市道風口・山田島線への入り口が狭い上にマンションが建設され交通量も多くなった。大型車両同士の離合も困難である。道路の拡張について、現在の進捗状況を伺う。</li> </ul> <p>3 太平橋入り口に時計台の設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 綱で巻いた時計台を望む声があるが取り組む考えはないか。</li> </ul> <p>4 子ども食堂等について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) コミュニティ食堂と子ども食堂との違いを伺う。</li> <li>(2) 本市に子ども食堂とコミュニティ食堂がそれぞれ何箇所あるか伺う。</li> <li>(3) それぞれの料金ごとの箇所数について伺う。</li> <li>(4) 実施状況ごとに箇所数を伺う。</li> <li>(5) それぞれの食堂のうち、大人が利用しているところもあると聞くがどれぐらいの人数か伺う。</li> <li>(6) 子ども、高齢者、障害者の方々に食事を提供する食堂の衛生面について伺う。</li> </ol>
11	松 野 信 作	<p>1 横断歩道の点検整備について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国道・県道（上川内交差点から隈之城交差点まで）の横断歩道の維持管理はどこが行うか。</li> <li>(2) 横断歩道の要望はどこが窓口であるか。</li> <li>(3) 市と警察署が連携して点検整備をすることはできないか。</li> </ol> <p>2 コミュニティマイスター制度について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 過去3年間の実績は</li> <li>(2) 制度の周知はどのように行っているか。</li> </ol>
12	坂 口 健 太	<p>1 スマイルアクション50について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画公表の経緯について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜこの時期に公表が行われたのか。</li> </ul> </li> <li>(2) 第3次薩摩川内市総合計画前期基本計画（案）とスマイルアクション50の関係性について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前期基本計画を現在策定中であるが、スマイルアクション50は前期計画のどのような部分を補完するのか。</li> </ul> </li> <li>(3) （仮称）スマイルアクションネットワーク協議会（略称案：サネック）について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 官民一体となって具体的にどのようなことに取り組むことを想定しているのか。</li> </ul> </li> <li>(4) （仮称）スマイル応援隊について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「関係人口」の創出を目指した組織とされているが、具体的にどの</li> </ul> </li> </ol>

		<p>ようなことに取り組み、どのような人員で組織されるのか。</p> <p>(5) 各分野別事業の概要について</p> <p>ア 小学校特認校制度事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校特認校制度があった頃と比べ、小学校の統廃合が進み小規模校は減少しているが、どれほどの規模や児童数の小学校を特認校とする考えか。</li> </ul> <p>イ ダイバーシティ形成推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダイバーシティとは、日本語で「多様性」のことであり、市民一人ひとりがお互いに、性別、年齢、人種や国籍、障がいの有無、性的指向、宗教・信条、価値観などの違いといった多様性を認め合うことは、全ての人が生き生きと暮らしていく上で重要であると考えるが、他方、範囲は幅広いため、ダイバーシティ形成推進に向けてどのような取組を具体的にやっていくのかといったイメージが湧きづらい。そこで、本事業では具体的にどのようなことに取り組む考えか。</li> </ul> <p>ウ サーキュラー都市地域ブランディング事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スマイルアクション50自体が、「人と経済が循環するまちづくり（サーキュラー都市）」を実行するための方向性を明らかにすることを目的としており、サーキュラー都市に、ヒト・モノ・カネが集まり循環していくに当たって、ブランディングが重要であると考えるが、実際にどのような事業となるのか。</li> </ul> <p>2 議案第114号 薩摩川内市債権管理条例の制定について</p> <p>(1) なぜ本条例案は、市税が対象となっていないのか。</p> <p>(2) 債権の放棄について</p> <p>ア 第16条第2号には、「相続財産の価額が強制執行をした場合の費用並びに当該非強制徴収債権に優先して弁済を受ける市の債権及び市以外の者の権利の金額の合計を超えないと見込まれるとき」とあるが、これは、債権の消滅時効の完成前に、請求や状況調査等に費やすコストを判断し、債権放棄を行うことができるという解釈でよいのか。</p> <p>イ 費用対効果や効率性を考慮することは大事であるが、条例の目的にもあるとおり、どのように公平性を担保するのか。</p> <p>ウ 「費用倒れ」の判断を行い、債権放棄を行うとモラルハザードが発生する可能性も考えられるが、モラルハザードの発生を抑制するためにどのような対策をとる考えか。</p> <p>3 シティセールスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口減少や少子高齢化など、住民生活、地域経済、行財政に与える影響を懸念すると、本市に住み続けたい人や来訪したい人が増えていき、地域の活力を維持していく必要があると考える。そのために、本市が「都市としてどのような価値があるのか」、「他の都市とどのような違いがあるのか」など、市内外に対し明らかにしていくことが、今後、交流人口・関係人口の創出や移定住の促進において重要であると考え。そこで、シティセールスに関し、今後どのように取り組んでいくか明らかにするために伺う。</li> </ul> <p>(1) 第3次薩摩川内市総合計画前期基本計画（案）の中にはシティセールスの施策方針として、「市民と一体となったシティセールスの体制強化」とある。市民と一体となったシティセールスを進めていくため</p>
--	--	---

		<p>にも、シビックプライドといわれるような、市民のまち自体への愛着や誇りの醸成が必要と考えるが、どのように取り組むか。</p> <p>(2) ブランドメッセージの設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブランドメッセージを設定し、地域が有する特徴や地域資源の魅力を分かりやすく伝えていくことで、市のブランド化を図り、交流人口・関係人口の増加や移定住の増加へつなげることができると考えるが、見解を伺う。</li> </ul> <p>(3) 官民連携での地域ブランド創出について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自治体の有する特産品などは自治体が主体となってブランド化を行うだけにとどまらず、各種民間団体が主体となってブランド化を行っている事例も多々存在するが、民間が主体となった地域資源を活用した名産・特産のブランド化について、市としてどのように支援を行っていく考えか。</li> </ul>
13	井上勝博	<p>1 政府の重点支援地方交付金の概要が判明した。急いで物価高騰対策を進めるべきと考えるが、その際、水道料金における基本料金の減免や学校給食費の無償化、灯油購入に係る支援など盛り込めないか。</p> <p>2 マイナ保険証の事実上の強制について</p> <p>(1) マイナ保険証の普及率、利用率を示せ。</p> <p>(2) マイナ保険証の所有者は使用期限を忘れることはないか。</p> <p>(3) 現行の保険証について期限まで利用できることを広報するべきではないか。</p> <p>(4) 国に紙の保険証を残すように強く要望するべきではないか。</p> <p>(5) 短期証や資格証明書は廃止されるが、医療費の10割負担をさせるペナルティそのものも廃止するべきではないか。</p> <p>3 職員の健康と作業効率について</p> <p>(1) 職員のサービス残業の実態について</p> <p>ア 職員の1年間の終業から退庁までの総時間数は</p> <p>イ 支払った残業代に相当する時間総数は</p> <p>(2) 休日出勤と振替休暇の実態について</p> <p>ア 職員の休日出勤の総日数は</p> <p>イ 振替休暇をとった日数は</p> <p>ウ 振替休暇をとれない場合の手当総額相当の日数は</p> <p>(3) 長期休暇の職員について</p> <p>ア 30日以上長期休暇の職員数は</p> <p>イ メンタルの職員数と主な原因は</p> <p>(4) やむを得ず残業をする職員の労働環境の改善は</p> <p>(5) 職員の健康と人間らしく生きるための残業時間の削減について</p> <p>ア 職員の残業時間を把握し、残業代を適正に支給するべきではないか。</p> <p>イ 休日出勤の振替休暇が確実にとれるようにするべきではないか。</p> <p>4 川内原発の使用済み核燃料について</p> <p>(1) 乾式貯蔵施設建設は市の合意が必要か。</p> <p>(2) 玄海原発の乾式貯蔵施設建設に至るまでの経過は（2019年設置変更許可申請2027年から運用開始）</p> <p>(3) 川内原発の使用済み核燃料プールが満杯になり動かせなくなる時期は</p> <p>(4) 使用済み核燃料の保管期間を明確にするべきではないか。</p>